

報告期間		ユーザー様名		S I 名・指導者名	
2006年 2月 13日(火) から		B 社様		株式会社電算	
2007年 5月 16日(水) まで				有賀 隆夫	
製品の内容、製品種類数、製品の単価(最高・平均・最低など)					
部品塗装、製品:300種類					
生産形態、工程の要素					
<input type="checkbox"/> 組み立て <input type="checkbox"/> 機械加工 <input type="checkbox"/> 板金 <input type="checkbox"/> プレス <input type="checkbox"/> 溶接 <input checked="" type="checkbox"/> 塗装 <input type="checkbox"/> メッキ <input type="checkbox"/> 研磨 <input type="checkbox"/> 鋳物 <input type="checkbox"/> 鍛造 <input type="checkbox"/> 熱処理 <input type="checkbox"/> 実装、SMT <input type="checkbox"/> 溶解 <input type="checkbox"/> スリット <input type="checkbox"/> 切断 <input type="checkbox"/> 溶断 <input type="checkbox"/> 成型 <input type="checkbox"/> 圧延 <input type="checkbox"/> 凝固 <input type="checkbox"/> 接着 <input type="checkbox"/> 食品加工 <input type="checkbox"/> プラスチック加工 <input type="checkbox"/> 化学薬品 <input type="checkbox"/> 衣類(裁断・縫製・ホタ) <input type="checkbox"/> 皮、ゴム、紙加工 <input type="checkbox"/> 織、編 <input type="checkbox"/> 印刷(除マニュアル等)・手書き <input type="checkbox"/> 染色 <input type="checkbox"/> エッチング その他( )					
指導種類		<input checked="" type="checkbox"/> 新規導入 <input type="checkbox"/> バージョンアップ <input type="checkbox"/> 再導入 <input type="checkbox"/> その他( )			
今回指導回数		8回目~15回目			
TPiCSバージョン		3. 1			
オプション・DB		受注販売、Oracle10g			
アイテム件数	1000件	BOM	1600件	所要量計算	2回/1日
				製番展開	回/月
実績インプット	件/日	伝票発行	2回/日	伝票発行	件/回
				製番展開	件/回
出席者		M氏、M氏、Y氏			
今回の指導目的					
<p>前回の報告では、TPiCSでの業務検証およびマスタ設定作業も予定通り進み、当初スケジュールどおり2007年3月末に本稼働の予定で進めてきましたが、その後TPiCSに登録されたマスタのチェックを行ったところ、基本的な情報の登録ミスが、かなりの範囲で発生していることがデータ移行作業の途中で判明し約1ヶ月本稼働を延期することになりました。(5月連休明け)</p> <p>TPiCSでの業務検証以降は、データ整備作業を1名の担当者にまかせきりであったこと、またその間の他のメンバーとのコミュニケーションの問題等もあり本稼働直前になって問題が発覚しました。</p> <p>再度仕切りなおしとして、プロジェクトリーダー初め当初の運用設計メンバーで全てのマスタの見直し作業を実施することとし、その際のTPiCSの運用レベルのマスタテスト方法など指導しました。</p>					
経過(発言者と内容)					
<b>■TPiCSの全マスタの見直し作業</b>					
マスタデータのCSVレベルの目視チェックを各業務担当の方々が実施しました。					
その後、TPiCSへの取り込み、整合性チェックなどを行い、基本的なエラー項目を潰していきました。					
<b>■運用レベルのマスタ検証およびマニュアルの検証</b>					
受注インプットから所要量計算を実施し、生計データ(数量、納期、伝票発行期間等)の確認を一製品毎実施しました。引き続き、運用マニュアルに沿って実績系の動きを検証しました。					
払出対象品について、払出指示情報の集計結果の確認(対象部品、まるめ等)の確認を行い					
払出実績に伴う在庫移動確認、実績インプットによる引落しの動きの確認等を実施しました。					
正常運用の検証の後、不良対応、再生処理対応、計画外の入庫出庫など例外処理の確認を行いました。					

## ■本稼動準備作業および本稼動運用支援

本稼動のデータ移行として、実地棚卸の実施と TPiCS の棚卸機能によるデータ移行作業を実施しました。受注残情報は、あまり件数が多くなかったため受注インプット画面から直接入力しました。

連休を挟んで製造工程での仕掛はない状況でデータ移行したため、注残データは外部への材料発注のみとなり、これも伝票データ画面よりインプットして移行しました。

この後、所要量計算を実施し、特急伝票や各種ジャーナルなどをチェックし不足データなどの追加や、マスタの不具合など修正し、データが確定したところで最終的な伝票印刷を行いました。

### 【伝票様式の変更作業】

各種伝票様式、特に外部へ提示する見栄えのよい伝票は、昨今 StiLL や OPRO など利用したアドオン開発が主流ですが、外部に頼むと多少なりとも費用がかかる点、お客様自ら作るとなると簡単なツールではありますが、それなりに知識や学習時間が必要になるなどの問題もあり、前回の報告では、市販の伝票作成ソフトを採用して作成しました。

そうは言っても運用上は、TPiCS の標準の画面から直接印刷できるのが理想ではあるので今回は本番を前にして急遽伝票様式の変更要望が発生した出荷納品書について TPiCS の様式を標準の書式変更機能を使って新たな納品書を作成しました。

正直、使いづらい点も多いのですが、罫線のそろえ方などこつがつかめてくると、3 時間程度で A4 白紙・3 分割ミシン目対応の、納品書/納品書（控）/物品受領書の様式が結構きれいに作ることができ、TPiCS の伝票書式編集機能を改めて評価することができました。

## ■現在の状況

TPiCS のシステムとしての運用は、5 月末時点で本稼動から約 3 週間経過して安定してきました。

稼動当初は、業務運用について現場担当者への事前教育が不足していたため、従来どおりの物に依存した作業がシステムに先行して行われ、TPiCS 上のデータと現場の状況に乖離が見られましたが、徐々に運用にも慣れ、また伝票印刷のタイミングなども変更することにより、TPiCS からの指示により物を動かすことができつつあります。

## 結 論

今後引き続き、TPiCS 導入による効果の評価や継続的な運用レベルの改善など進める必要がありますが途中で問題はあったものの少数のスタッフで約 6 ヶ月間で確実に本稼動ができたことは、大変評価できる事例かと思えます。

アイテムの点数が比較的少ないこと、工程が複雑でないことなどが直接的な成功の要因ではありますが、ポイントとなったのはシステム導入にあたってお客様が既存の業務レベルを冷静に分析して、

①まずは必要最小限の目的に絞り TPiCS を稼動させたこと、

②工場長、管理部長、営業部長はじめ会社の主要な方が直接導入作業に携わったこと

が大きかったかと思えます。

以上					
検討事項・要回答事項・要継続審議事項					
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
次回開催日(予定)	次回開催場所(予定)	議事録作成日		議事録作成者	
		2007年5月30日(水)		有賀	

Format1.1